

2019年の漢字は「令」だった。令和という新しい元号が制定され国民からの評判も良いからだろう。その令和も2年目となり、新元号としては初のお正月を迎えた。良い年にと願うばかりだ。

昨年暮れには令和

2年度の国家予算が成立した。国家予算は国民の生活に大きな影響を与えるものだが、一般人から見ると金額が大き過ぎ

ていまひとつピンと来ない面もある。そんな中でわれわれ私立学校を預かる者から見ると大きな変化が予算の中に盛り込まれた。私立高校の授業料が世帯収入590万円以下は無償、つまりただになる、というものである。

夢 正 無償化
の 和 立 高 校
の 令 立 高 校
の 正 無償化
の 夢 正 無償化



草野 義輔

私が学生だった50年前は国立大と私立大では10倍の費用格差があった。それが今では文系でみればわずか1・5倍以内。経済的格差が縮まった結果、私立大の評価が大きく伸びた。今回の私立高の実質無償化は、私立高校生の半数以上が該当するという。地方ではより該当比率が高いと思われる。結果として公立高との経済的垣根が随分と低くなることになる。

以前、大阪での調査では「費用が同じなら私立を選ぶ」が半数以上だったようだ。私立

高の学費の保護者負担軽減はわれわれの悲願であったが、それがほぼ実現し正夢となった。ただし、学校の内容がより厳しい評価にさらされることにもなる。正夢は正念場でもあるようだ。

(昭和学校園高校理事長・日田市)